

令和4年度 学校評価のまとめ

山形県立上山高等養護学校

1 アンケート全体から

(1) 過去3年間と比較した結果は以下のとおりである。

- ①生徒の評価は全体的に高い評価となっている。90%を下回った項目はない。
- ②保護者の評価は令和2・3年度とほぼ同様である。90%を下回った項目はないが、これまでより若干下がっている項目がある。
- ③職員の評価は「働きやすい職場になっている。」が一番低いものとなっている。
- ④生徒、保護者、教員に共通して評価が低いのは、「信頼できる開かれた学校」に関する項目である。

2 生徒のアンケート結果

(1) 評価の高い項目 100%

- ・設問 7 「自分にとって授業はわかりやすい。」
- ・設問 12 「自分は好きなことや得意なことがある。」
- ・設問 18 「洗濯や掃除など身の回りのことができるようになってきている。」
- ※ 過去3年間と比較すると、設問1、2、11、14、15 年々伸びが見られる。

(2) 評価の低い項目 特にないため90%未満の項目を挙げた。

- ・設問 17 「寄宿舎での行事や余暇活動は充実している。」
- ※ コロナ過でもあり、活動での制限が多かったことが要因と思われる。

(3) 昨年度より評価が下がった項目

- ・大きく評価が下がった項目はないが、下がった項目は設問9、16
- ※ 気軽に相談できる先生がいない、寄宿舎の先生は自分を分かってくれていない 等

3 保護者のアンケート結果

(1) 評価の高い項目 100%

- ・設問 1 「お子さんにとって学校生活は充実している。」
- ・設問 6 「分かりやすい工夫された授業が行われている。」
- ・設問 13 「学校は関係機関、事業所と連携した進路指導を行っている。」
- ・設問 15 「寄宿舎指導員はお子さんのことを理解して接している。」
- ・設問 16 「寄宿舎での行事や余暇活動は充実している。」
- ・設問 17 「お子さんは身の回りのことができるようになっている。」

(2) 評価の低い項目 90%未満

- ・ありませんでした。

(3) 昨年度より評価が下がった項目

大きく下がった項目はないが、以下の項目で低下が見られる。

- ・設問 5 「教職員はお子さんことを理解して接している。」
- ・設問 11 「学校は、お子さんの学校での様子を十分に知らせている。」
- ・設問 12 「地域に開かれた学校になっている、生徒達は地域と関わって活動している。」
- ・設問 14 「寄宿舎生活は充実している。」
- ・設問 18 「寄宿舎は、お子さんの舎での様子を十分に知らせている。」

4 教職員のアンケート結果

(1) 評価の高い項目 100% なし。

- ・設問 8 「生徒や保護者の相談に耳を傾け、ていねいに対応している。」
- ・設問 10 「生徒は安全・安心な学校生活を送っている。」

(2) 評価の低い項目 80%未満について記載

- ・設問 12 「センター的機能など地域に貢献している。地域に開かれた教育課程が実施されている。」 (75%)
- ・設問 16 「教育実践の悩み等を気軽に相談できる。」 (75%)
- ・設問 21 「寄宿舎での行事や余暇活動は充実している。」 (67%)
- ・設問 17 「働きやすい職場になっている。」 (62%)
- ・設問 19 「教材研究や担当業務を行う時間が確保されている。」 (62%)

(3) 昨年度より大きく評価が下がった項目

- ・設問 21、22 と寄宿舎での低下が見られる。

5 まとめと考察

(1) 生徒にとって「成長を実感できる学校」にするために

- 多くの生徒は、学校生活が充実していると感じている。学級担任や舎担当を中心に関係者が連携し、生徒の様子に気を配り情報を共有したり、いじめの未然防止や問題行動について早期発見、早期対応に努めたりしている結果であると考ええる。
- 生徒は、仲間との関わりや協力などにより学校生活を楽しんでいる。また、職業で製作した商品が校内バザー販売できたことを喜ぶ生徒も多かった。
- ▲評価では出てこなかったが、自分自身や仲間のことなど、悩みを抱えている生徒もいるのが現状である。今後も引き続き生徒との面談を行うなど、話を聞く場の設けていく必要があると考える。

(2) 保護者にとって「安心して任せられる学校」にするために

- 今年度も生徒や保護者からは全体的に高い評価を得ている。これは「傾聴と共感」の教職員の姿勢について、全員で継続して共通理解を図ってきたことの表れであると考ええる。
- ▲評価項目で、「教職員はお子さんのことを理解していない」、「学校や寄宿舎で生活の様子を十分に知らせていない」という評価が、他の設問と比べ厳しい評価をしている保護者がいた。どのような部分で十分知らせていないと感じるのか、家庭と学校の連携でそう感じる理由は何かをお聞きし、丁寧に対応していきたい。

(3) 地域や関係機関にとって「信頼できる開かれた学校」にするために

- ▲「信頼できる開かれた学校」の評価は、生徒は上昇している。しかし保護者、教職員は少しだけ下がっている。就労支援施設や福祉事業所との関わりは多いが、学習時における地域資源の活用などが低い要因と思われる。これまでの学習を踏襲するのではなく、学習指導要領が求める「社会に開かれた教育課程」について互いに確認しながら学習に組み込んでいく必要がある。今後も学習内容の見直しや改善を継続的に図っていく。

(4) 教職員にとって「働きやすく働きがいのある学校」にするために

- ▲教職員の多忙感・負担感、働きやすい職場でない、気軽に相談できないなど、微増であるが昨年度より改善が見られつつある。今年度も「ノー会議デーの設定」や「定時退校日」などを活用しながら、ゆとりをもって働けるように取り組んでいきたい。